

（7）余震活動の解析と今後の推移

背景的な地震活動を加味した改良大森公式による余震活動予測と実測を示した。まず、2000 年以降の余震域における地震回数を比較すると、震度 1 以上を観測する余震は、余震域内の M3.7 以上の回数でほぼ近似できると考えられる。

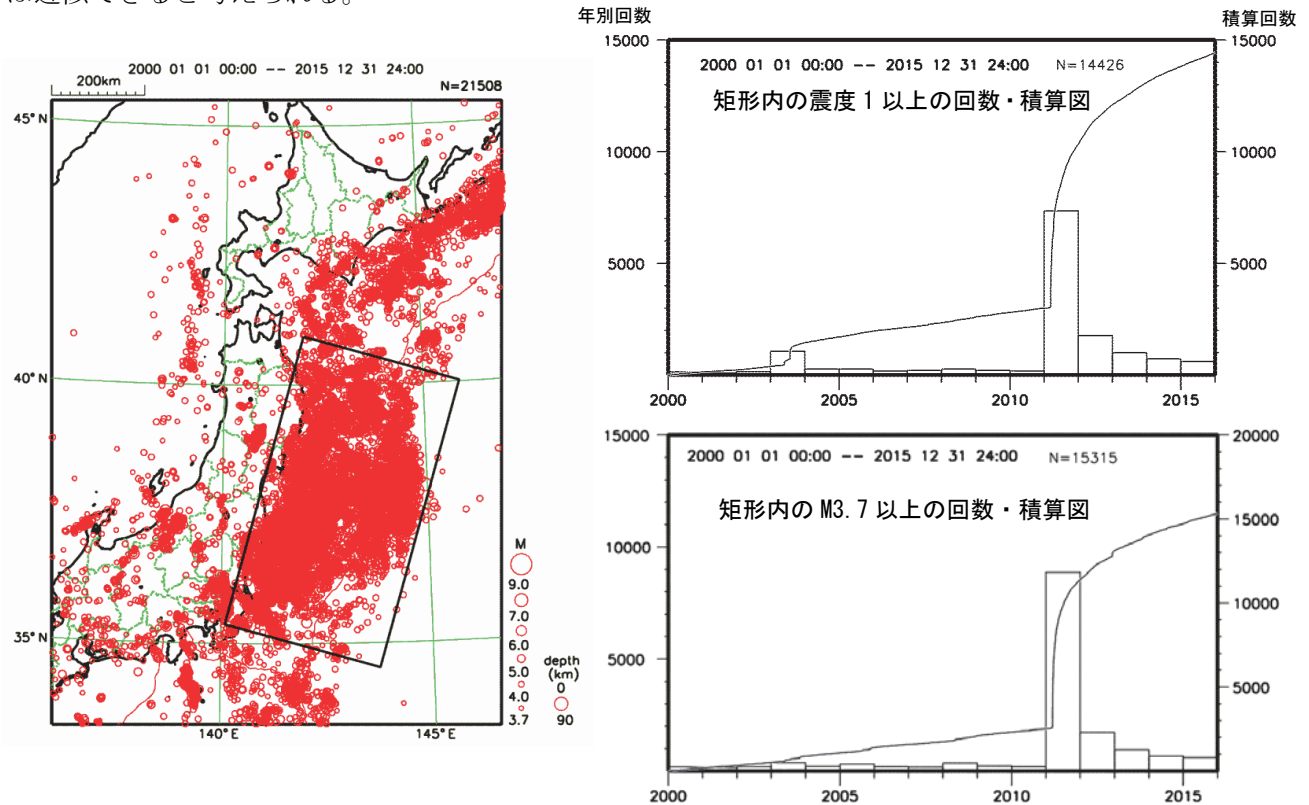


図 7-1 震央分布図（左：2000 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日、深さ 90km 以浅、 $M \geq 3.7$ ）及び矩形内（東北地方太平洋沖地震の余震域）の震度 1 以上の地震回数・積算図（右上）、同 M3.7 以上の地震回数・積算図（右下）

このため、M3.7 以上の地震について μ^* （ $=0.41$ 回/日）を加味した改良大森公式による予測を示した。今後は徐々に 2011 年以前の発生状況に近づくと推測できる。

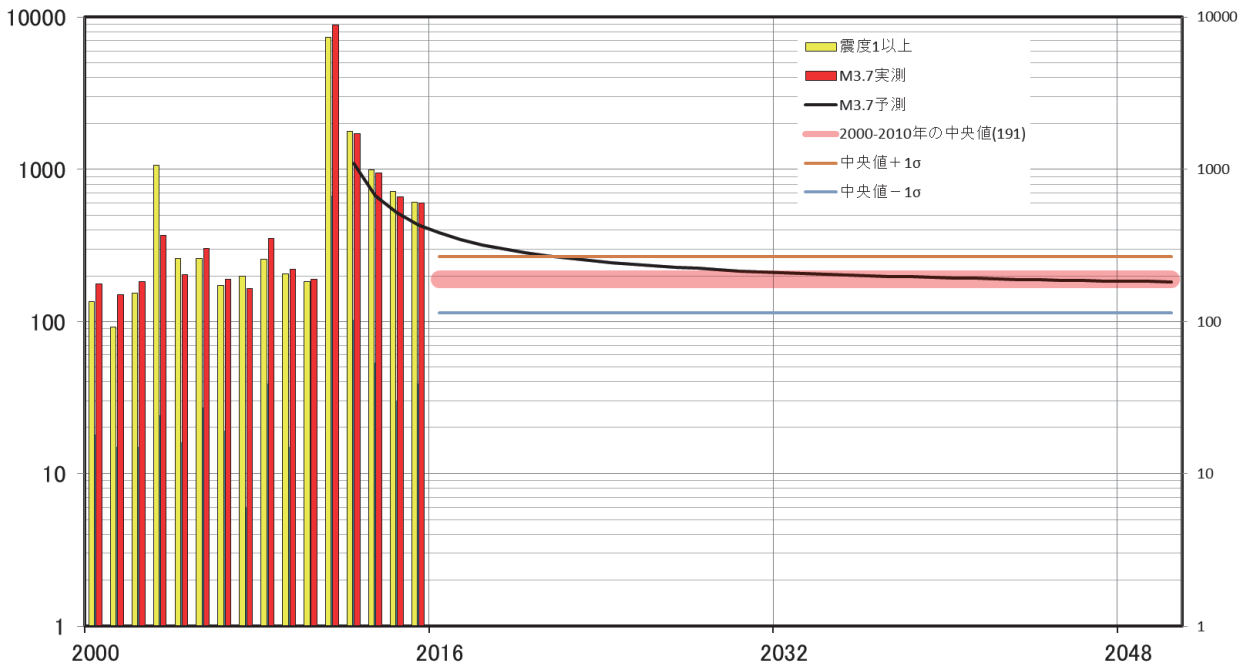


図 7-2 東北地方太平洋沖地震の余震域における震度 1 以上の地震及び M3.7 以上の地震の年別発生回数（2000～2015 年）と μ を加味した改良大森モデルによる M3.7 以上の地震回数予測
* μ はランダムに発生する 1 日あたりの地震回数